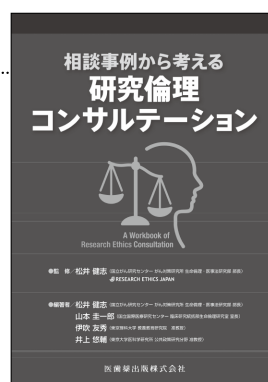


『相談事例から考える 研究倫理コンサルテーション』

松井健志 監修・編著／山本圭一郎 伊吹友秀 井上悠輔 編著

●定価 5,720 円(税込み) ●B5 判 424 頁 ●医歯薬出版刊

●発行年月：2022 年 10 月 ●ISBN978-4-263-73210-6



医学研究に関わるすべての人のために

研究倫理コンサルテーションとは、研究の計画から公表に至るあらゆる場面で研究倫理の専門家が助言を行う活動であり、まだ日本では発展途上の段階にある。こうしたなか、専門家によって執筆された国内初のテキストが出版された。すべての研究機関に一冊は常備しておき、判断に困る事例が出てきた際には参照できるようにしておきたい。とりわけ、執筆時期を考えると大変な作業だったと推察されるが、令和2年・令和3年の個人情報保護法改正にすでに対応している点は特筆に値する。

構成としては、冒頭の「研究倫理コンサルテーションの基礎」を除けば、中心は20の相談事例である。これらの事例はそれだけを見ると、小児バイオバンクや認知症コホート、サプリメントの臨床試験、病理検体や健診データの利用など、一見ニッチな相談が取り上げられているように見える。しかし、実際はそうではない。全体を通読すれば、20の事例によって多様な研究デザインと研究対象者が網羅されていることに気づく。また、各事例のなかには医学系研究の方法論や関連する法や指針の知識、国内外の学術的な議論がBOXやColumnとして埋め込まれており、ここを読むだけでも相当の知識が得られる。巧みな構成である。

さらに本書の最大の魅力となっているのは、専門家がどこに着目して事例を分析し、どのように追加で情報収集を行い、最終的にどういった助言を返すのか、という一連のプロセスが詳述されている点である。いわば、研究倫理の専門家が「手の内」を明かし、単なる結論だけではなく、考える過程を共有することを促す構成になっているのだ。こうした構成は海外の類書にも見られないものであり、本書のオリジナリティであると同時にきわめて実践的なものである。

というのも、現実には全く同じ相談はなく、出来合いの「答え」を引き写すだけでは相談対応はできないからだ。私自身の経験からも、何よりも重要なのは事例を見る「眼」であって、これは一朝一夕には養えない。しかし、本書を読めばある程度はこうした「眼」を養うことができ、誰であれ倫理面での研究評価の勘所を知ることができるのだ。

その意味で、本書は研究倫理の専門家のみならず、医学研究に関わるすべての人にとっての必読書である。広く読まれることを期待したい。

(田代志門／東北大学大学院文学研究科社会学専攻分野)